



いただきます つてなに？

①

演出ノート

若さま

「いった だつきまゝす！」
あるお城に、食べるの 大好きな
若さまがいました。

元気よく、乱暴に
(いただきますの
意味を知らず)

ー ゆっくり 抜く ー



②

若さま

「おかわりじゃ！ もつと たくさん
よそつて ほしいの じゃ！！」

だけど・・・

残したごはんが、たくさん！！！！
だいこんの爺じいやは、言いました。

爺や

「これ若さま こんなに 食べ残して
もつたない！ 困った もんですぞ！」

若さま

「だって おいしいから
いっぱい欲しいのじゃ！」

爺や

「うーん どうしたものか
そうじゃ！ 若さまの大好きな
春・夏・秋・冬のご馳走ちそうの旅に行きますぞ
ささつ 急ぎますぞ・・・」

「 抜く 」

間をおく

必要に応じ、

「どうしたんだろう
ね？」という問い
かけがあっても良
い

説教風

駄々をこねるよう
に



3

まずは春、若さまと爺じいやは桜の樹の下で、
食べ物たちに出会います。

菜なの花 黄色で ゆくらゆら ♪

キャベツは 春はあるに ふーわふわ ♪

たけのこ ツンツン ニヨツキニヨキ ♪

菜の花

「若さま よく来たただあ」

菜の花さん・たけのこさん・キャベツさん・

玉ねぎさんが、お花見でおもてなし。

昆布さんも遊びに来ました。

たけのこさんが言います。

たけのこ

「一緒に食べるニヨキ！」

若さま

「おいしそうじゃー！」

「いった だっきま〜す！」

ー 抜く ー

音節…四・四・四
(音数律)

※春キャベツは、甘くみずみずしく、巻きが緩く柔らかいのが特徴

※筍(たけのこ)は成長が早く、食べ頃(旬(しゅん))が短い

必要に応じ「どこにいるかな〜」など子どもたちに問いかける

【ニヨキ…役割語・キヤラ語尾】

元気よく、乱暴に

ほっかほかゝの
ツヤツヤゝ♪

喜んで食べていた若さま、
ふと、箸^{はし}を止めます。



若さま

「あれれれれ？ たけのこさん
頭はツンツン硬いけど
やわらかくておいしいの どうしてじゃ」

たけのこ

「お風呂に 入ってやわらかくしたニヨキ」

若さま

「そうか！ みんな頑張って
おいしくなるのじゃな！
もっと おいしいもの 知りたいのじゃ」
昆布さんが言いました。

昆布

「海の中にも おいしいもの たくさんある
でござる よろしければ わたくしのすむ
竜宮城へ 今からお招きするでござる」

若さま

「海には 行ったことがないのじゃ
ぜひお願いするのじゃ！」



⑤

昆布が巻き巻き　ぐるぐる　♪

昆布でみくんな　喜んぶ♪

夏の海を、昆布さんと旅します。

竜宮城に辿りつくと、

出迎えた鰹さんたちがおもてなし。

鰹

「よく来たぎよ

ささっ　わたくしどもの　お味噌汁

召し上がるぎよ」

若さま

「いった　だっきまゝす！」

若さまは、出されると、たちまち

飲み干します。

― 次の場面、半分まで（①の線まで）抜く ―

リズムカルに！

音節…三・四・五

※長音を一音で換算

※昆布の代表的な食べ方の一つが昆布巻き（魚介類を昆布で巻き、砂糖醤油などで煮たもの）
また、煮物・おでんでは結び昆布があります

※「昆布＝喜ぶ」に通じ、古くから縁起物として使用されます

【ぎよ（魚）…役割語・キャラ語尾】

元気よく、
やや乱暴に

― まず、①の線まで抜く ―



若さま 「おいしい お味噌汁
じゃ！ どうしてこんなに
おいしいのじゃ？」

昆布さん・鯉かつおさんが答えます。

昆布 「わたくしどもの味がとけてるでござる」
鯉 「わたくしども 仲良しだぎよ 一緒に使っ
てもらおうと とてもおいしくなるんだぎよ」

あら大変、それを聞いてほかの食べ物たちも、
えっさ！ほいさ！と、大慌おおあわてで駆かけつけます

― 残りを抜く ―

1

煮干いにしほし 「お私たちの味噌汁みそしるも おいしいだよ！」
鯛みそしるの煮干しさん、海老えびさん、椎茸しいたけさんも、
お味噌汁でおもてなし。

若さま 「どれもこれも おいしいのじゃ！」
ほっかほかゝの ツヤツヤゝ♪

若さま 「こんなにおいしいと お米のごはんも
食べたいのじゃ！」

― 抜く ―

【ぎよ(魚)：役割語・
キャラ語尾】

※「えっさ・ほいさ」
は古くからある掛
け声。童謡の「お
猿のかごや」が有
名

必要に応じ子ども
たちの反応を待つ
たり気付きを聞く。
「煮干しさん達は、
どこに いるか
な？」



7

お米を探しに、田んぼにやってくると
すっかり秋

お地蔵さんじぞうやカカシさんたちが、稲を
刈ったり、運んだり、干したり、大忙しです。

若さま
「お米を作るのは すごく大変じゃ」

お地蔵
「では若さま お手伝いお願いしたいぞう？」
若さまは、一生懸命、お手伝いして
気がつきました。

若さま
「お地蔵さんじぞうやカカシさんたちが いっぱい
頑張るから おいしいごはんになるのじゃ
早くお城に帰って 食べたいのじゃ」

― 抜く ―

必要に応じ子ども
たちの反応を待っ
たり気付きを聞く。
「お地蔵さんとカカ
シさんは、どこで
何しているかな？」

少し、悟ったふう
に



8

お城へもどると、すっかり冬になっ
ていました。

若さま

「爺や すごく寒くて お腹もペコペコ
あったかいお汁しると ごはんがいいのじゃ
僕も手伝うから 皆で作るのじゃ」
爺じいやも、力をこめて言います。

爺や

「では 皆で 夕食の支度したくをしますぞ！」
山の猟師りょうしさんも鳥を捕まえてお手伝いに
きました。

― 抜く ―



若さまはびっくり。

若さま

「鳥さんを食べちゃうの？」

かわいそう

可哀想じゃ 可哀想じゃ」

駄々こねるように、
訴えるように

少し寂さびしそうに獵師りょうしさんは、
鳥の汁しるを作ります。

獵師

「んだべ 可哀想かわいそうだから 一生懸命

命いただに感謝して頂いたくんだべ

さっ 少しだけ 味見するだべ」

とてもおいしい匂においがしてきます。

若さまは、悲しい気もちがいつぱいで、
戸惑とまどいながら、味見してみました。

若さま

「…おいしいのじゃ」

冷えた体が温まり、おいしさが、
口から喉からお腹の中まで駆け巡ります。

若さま

「鳥さん ごめんね ありがと なのじゃ」
噛かみ締しめるように言いました。

「 抜く 」

寂しそうに

間を置いてから
つぶくように

丁寧に
つぶくように



10

爺やは、励ますように言います。

爺や

「ささっ あったかいうちに食べますぞ」

少しだけ元気が出た若さまは、
手を合わせて、
そっと、でもしっかりと言いました。

若さま

「いただきます」

「 抜く 」

間をおいて

(いただきますの
意味を知って)
丁寧に



11

若さまは、食べながら、爺じいやと巡めぐった、
食べ物の旅を思い出していました。
そして一口一口、大切に味わって食べます。

ほっかほかの ツヤツヤ♪

もう若さまは、食べ残しはしません。

若さま

「ここまで おかわり 欲しいのじゃ」
お茶碗の半分ぐらいを、指差します。

若さま

「ここまでだったら 全部食べるのじゃ」

― 抜く ―

※施設の指導に応じ、
文言を修正してく
ださい。
例：「ここまでじゃ、
ここまで減らしてほ
しいのじゃ」
(喫食前に子どもたち
の食べる量を調整す
る場合)



12

若さまは、お米一粒も、残さずに食べました。

若さま

「爺や これからは 残さないように
頑張るのじゃ

ちよつとずつかもしれないけど…」

爺や

「そうですね！ 若さまは 食べるときに
大切な何か わかったのですぞ」

綺麗きれいに平たいらげたお茶碗の前で、若さまは、
ゆつくりと言いました。

若さま

「じちそうさま でした」

おしまい

※子どもたちの、プレッシャーやハードルにならぬよう配慮

うれしそうにうなずきながら

※必要に応じ「何が大切であるか」「子どもたちの考えを聞く